

## 005 Cacco

| 作品名                   | 作家名                             | 感想   | 評価   |
|-----------------------|---------------------------------|--|------|
| トリップ                  | 角田光代<br>光文社                     | 10の短編からなる連作小説。東京近郊のある町で暮らす人々。同じ土地で暮らしても言葉を交わすことのない人たちがふとすれ違う瞬間を少しずつダブらせて次の物語へと進んでいく。九編目は町に越してくる若い夫婦を、最後は町から抜け出し海外に住む女性を描き、趣が少し違う。主人公達は「許されている」感覚を得ることを求めているようだ。  | ☆☆☆☆ |
| センセイの鞆                | 川上弘美<br>平凡社                     | TICAさん、グリコちゃん推薦本。小泉今日子、柄本明主演で映画化もされました。2001年谷崎潤一郎賞受賞。居酒屋で再会する37才のOL月子と70才近い高校時代の国語のセンセイ。ふたりは好きなつまみでゆったりお酒を飲み、丁寧語で言葉少なく話し、一定の距離を保っているが、徐々に月子の気持ちは変化していく。一泊旅行に出かけ、美術館に出かけ、こちらとあちらの間地点でもふたりはお酒を酌み交わす。静かな恋模様は安心感があっていいが、なにしろわたしは若い男のほうが好きなわけで・・・だからあんまりうらやましくないし、あんまり惹かれないのです。 | ☆☆☆★ |
| その夜、<br>ぼくは<br>奇跡を祈った | 田口ランディ<br>絵・<br>網中いずる<br>大和出版   | クリスマスの夜のお話三篇。田口ランディという人はもっと毒のあるアクの強い人だと思っていたのに、こういう童話のような話も書くんだあという感じ。   | ☆☆☆  |
| 木霊                    | 田口ランディ<br>絵・<br>篁カノン<br>サンマーク出版 | 生まれたころから周りの人たちと生きるスピードが違っていると感じていた少女のお話。実は彼女は木に宿る精霊だった。ヒトになれなかった魂は再び木へと転生する。面白かった。   | ☆☆☆☆ |

|       |                 |   |       |
|-------|-----------------|---|-------|
| アンテナ  | 田ロランディ<br>幻冬舎   | 15年前の朝一緒に寝ていたはずの妹真利江が忽然と消えていた。翌年生まれた弟は会ったことのない真利江をアンテナでキャッチする。妹が消え弟は狂い父は死に母は新興宗教に走り、僕はそんな家族から逃げる。しかし僕が23歳になった時弟の発病で家へ帰らざるをえなくなる。面白い。オカルトチックな話だと思うが主人公達はとても真剣に自身を再生させようとする。性描写が強烈で一瞬作者は男性か?とってしまった。自分と性の違う主人公ってのは描きにくいんだらうか?田ロランディさんを好んで読む人は女性のほうが多いのかなとも思う。 | ☆☆☆☆★ |
| モザイク  | 田ロランディ<br>幻冬舎   | 問題行動のある、家族では手に余る人間を精神病院まで本人に納得させて送り込む「人間移送ビジネス」の契約社員佐藤ミミ。ある日移送中の顧客正也が「渋谷の底が抜ける」という奇妙な言葉を残して逃走する。移送までの正也との五回の面談と正也を探す過程とが交錯する構成。救世主救済委員会、渋谷、若者、携帯電話、電子レンジ化する人々、ミミの父母の死の真実、超能力。面白い。正也の愛読書は萩尾望都の「百億の夜と千億の昼」。正也はミミをあしゅらおうと呼ぶ。この漫画はわたしの愛読書でもあります!                | ☆☆☆☆  |
| コンセント | 田ロランディ<br>幻冬舎文庫 | 「コンセント」「アンテナ」「モザイク」で三部作ということらしい。再読。前に読んだときは面白いと思わなかったのだが、再読した今回はとても面白く読めた。「アンテナ」「モザイク」と読んで「コンセント」に戻る読み方がとてもよかったのか、自分のどこかが変わったのか、何故なのかはわからないけど。ある日アパートの一室で兄の腐乱死体が発見される。それ以来朝倉ユキは死臭がかぎ分けられるようになってしまう。兄は死んでからなお何故自分にメッセージを残すのか?面白いです。                          | ☆☆☆☆★ |

